平成 30 年度

第１回六ヶ所村総合教育会議議事録

総務課

平成30年度第１回六ヶ所村総合教育会議

１　日　時　　平成30年４月13日（金）10:00～10:45

２　場　所　　役場　分庁舎３階　大会議室

３　出席者

六ヶ所村長		戸　田　　衛
六ヶ所村教育委員会教育長		橋　本　博　子
六ヶ所村教育委員会委員		工　藤　健　司
〃		橋　本　篤　哉
〃		伊　藤　夏　子
〃		築　田　信　義

４　事務局

総務課	課　長	古　泊　　崇
	課長補佐	木　村　雅　勝
	主　幹	小　泉　　和
教育委員会学務課	課　長	佐　藤　　広
	課長補佐	髙　村　博　行
	総務・教育行政GM	髙　田　と　め

５　会議次第

（１）開会

（２）村長あいさつ

（３）議事

①六ヶ所村立小・中学校の配置計画（案）について

（４）その他

（５）閉会

６　会議の概要

【古泊課長】

定刻となりましたので、ただ今から、平成30年度第１回六ヶ所村総合教育会議を開催します。開催にあたり、戸田村長よりごあいさつ申し上げます。

【戸田村長】
　平成 30 年度第１回六ヶ所村総合教育会議の開催にあたり、一言ごあいさつ申し上げます。
　本日は、ご多忙中のところ会議にご出席いただきましてありがとうございます。また、橋本教育長をはじめ教育委員の皆様には、日ごろから教育行政の充実と発展に多大なご尽力を賜り、厚くお礼申し上げます。
　さて、文部科学省では、義務教育段階での学校の役割として、単に教科等の知識や技能を習得させるだけではなく、児童生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身につけることが重要であり、そのためには一定の規模の児童生徒集団の確保や、バランスのとれた教職員集団が配置されていることが望ましいとしております。国内各地における学校統合の背景である社会的な少子化の進行は本村においても例外ではなく、村内の小学校の児童数は平成元年の 1,000 人あまりから平成 29 年には 500 人あまりに、中学校の生徒数も平成元年の 600 人あまりから平成 29 年には、260 人あまりと、それぞれ半数以下に減少しております。この傾向は今後も一定期間続くものと考えられ、尾駮地区を除く村内小中学校が一学年一学級の小規模校である状況や、経年に伴う学校施設の老朽化への対応等が必要なことから、この度、教育委員会において教育施策の大綱の基本計画に基づき独自施策による少人数教育の実施を含めた、新たな小中学校の配置計画案を策定したところです。委員の皆様には、村の教育環境の充実に向けての貴重な御意見、後提言を賜りますよう申し上げ、挨拶と致します。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【古泊課長】
　ありがとうございました。
六ヶ所村総合教育会議の運営に関する要綱第３条の規定により「会議の議長は、村長をもって充てる」となっておりますので、戸田村長に進行をお渡しいたします。よろしくお願いいたします。

【戸田村長】
　それでは、議事に入ります。
　議事第１号「六ヶ所村立小・中学校配置計画（案）」について」事務局の説明をお願いします。

【木村課長補佐】
　それでは、ご説明いたします。
平成 28 年 1 月に開催されました六ヶ所村総合教育会議で決定された「六ヶ所村教育施策の大綱」の「4. 基本計画」の「①教育環境の充実」において「郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、想像力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓く人財育成を目指し、小・中学校の適正配置や通学時の安全確保など就学環境の整備云々」と「小・中学校の適正配置」がありますことから、教育委員会におきまして村内の小・中学校の配置計画について検討し、案を策定したところでございます。本日の会議では、この案につきまして協議・調整のうえ、ご承認を賜りたいと考えております。
　案については事前に配布しておりましたが、要点となる部分を改めてご説明させていただきます。
　案は、教育委員会学務課より説明いたします。

【佐藤課長】
　それでは、教育委員会からご説明申し上げます。学務課の佐藤と申します。よろしくどうぞお願いいたします。着席してご説明させていただく失礼をお許しください。
　それでは、資料の１配置計画（案）の２ページをお願いいたします。
　３　将来的な学校配置計画、及び４ページの４　教育環境充実のための独自の施策につきまして、原文をそのまま読み上げさせていただきますのでよろしくお願いいたします。
　３　将来的な学校配置計画
　本村の状況を総合的に勘案しつつ、将来的には小学校及び中学校について、それぞれ適正な規模と配置を可能とするため、様々な工夫と発想を取り入れながら、基本的に統合を視野に教育環境の整備を図っていくこととする。特に、老朽化が進む学校においては、平成 30 年度から具体的な事業実施に向けて着手する。ただし、小・中学校にはそれぞれ求められる役割に相違があり、また児童生徒の成長過程における教育の重要性の観点から、以下の基本的な考え方及びプロセスを経るものとする。
（１）小学校について
　村内の小学校は、千歳平小学校を除いて経過年数が最長でも 13 年程度と比較的新しい校舎であり今後もある程度の期間供用が見込めること。
　将来の児童数の推計期間が６年程度と短くその後の出生数による推移を見極めた上での計画とする必要があること。

加えて、学校は未来を担う子どもたちの教育の場であることは言うまでもないが、一方で長年の地域社会との関わりから地域コミュニティの中核施設ともいわれており、特に小学校についてはこれらを総合的に考慮し、以下の考え方に基づく計画とする。

① 村内の小学校は、当面現有の４校とする。ただし、教育委員会は少なくても３年以内毎に学校の適正規模、配置及び教育環境の充実、財政の適正化の観点から配置計画の妥当性を検討し必要に応じて見直しするものとし、各学区の新入学児童が 10 人を下回り複式学級への移行が想定される時点では、具体的に統合に向けた検討に着手することとする。

② 千歳平小学校は、昭和 51 年度に建設され 41 年が経過し老朽化が著しいため、速やかに建替えを進めるものとする。ただし、規模決定にあたっては、過大とならないよう、事業費の削減に努めることとし、加えて将来他の公共用施設への活用も考慮した弾力的な計画とする。

③ 他の３小学校についても、適正な学校規模確保のため統廃合に移行する場合に備え、あらかじめ他の公共施設への用途換え等の対応策を庁内において検討し、具体案を明確にしておく。

（２）中学校について

村内の中学校については、平成 40 年度の推計では全生徒数が約 233 人に減少する見込みであり、このうち全校生徒数約 108 人の第一中学校を除く３中学校では各学年の生徒数が 6 人から 19 人となり、１学年１学級かつ少人数（小規模校）となる見込みである。

この学校の小規模化により、現時点においても生徒同士の切磋琢磨、健全な競争意識の醸成や人間関係の広がりを心配する声もあり、また部活動のチーム編成ができないなど支障も生じている。将来はこのような傾向が一層顕著になるものと思われ、適正規模の学校を設置する他の自治体との教育の公平性や選択の機会提供等の観点からも課題である。

施設面では、第二中学校が平成７年度建設で築 22 年と比較的新しい施設であるが、千歳中学校が昭和 42 年度建設で 50 年経過、泊中学校は昭和 50 年度建設で 42 年経過、第一中学校が昭和 60 年度建設で 32 年経過しており、耐震上の問題はないものの、特に千歳中学校と泊中学校の老朽化が著しくその対策が急務である。

このことから中学校については、10 年程度以内を目途に最終的に１校に統合するものとし、それまでの間、早急な対策が必要な泊中学校、千歳中学校については、次の対応を実施する。

① 泊中学校は、防災的な観点や老朽化等への早急な対応として、泊小学校との併置に向け平成 30 年度から調査に着手し、概ね２～３年程度を

目途に泊小学校の設計、改修工事等を終えて小・中学校併置校に移行する。
②　千歳中学校は、老朽化等への早急な対応として、現時点で各学年２クラスの教室が確保されている第二中学校が防音機能復旧事業による空気調和設備の更新等により良好な就学環境が期待できることから、平成30 年度から具体的な準備に着手し、概ね２年程度を目途に第二中学校との統合に移行する。

４　教育環境充実のための独自の施策

少人数教育の実施について

本村小・中学校の学級編制は、公立学校義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律に基づき、青森県が定める学級編制基準に従っており、１学級の児童生徒数は、小学校第１学年 35 人、小学校第２学年以上及び中学校が 40 人である。

この学級編制について、ＯＥＣＤ（経済協力開発機構）加盟国での比較では児童生徒数の標準を 40 人とする日本に対し、主要な国ではアメリカ･イギリスが 30 人前後、ドイツが 25 人前後、フランスが 20 人前後（『学級規模の基準と実際』文部科学省）と多くの国が少人数教育である。

少人数教育の有効性については、「きめ細やかな指導ができる。」「主体的な学習が推進できる。」「教員と児童生徒や児童生徒同士のコミュニケーションを図ることが一層可能となる。」等の多くの研究結果から、国においても少人数を可能とする学級編制の弾力化に係る制度改正を行なってきており、本県でも小学校第２学年を 35 人以下とする等の弾力的な学級編制を実施している。

また、県では該当する学年の児童生徒の学習指導や生徒指導等の状況が改善される見込みがあること。市町村の措置する教員が対応し、現有教員へ著しい負担を課さないこと。原則として１学級が少なくても 16 人（31 人学級）以上となることへの留意を求めた上で、市町村教育委員会が県の基準等によらずに弾力的な学級編制ができるとしている。

教育委員会としては、学校の適正規模化を図るための本配置計画が実施されることによって、単に学級の児童生徒数の増による過度な教員の負担増や生徒のきめ細やかな指導への影響など、教育の質の後退につながらないよう、計画の実施にあわせて少人数指導やチームティーチングの拡充などに取り組みつつ、中学校を１校とする時期には本村独自に少人数学級編制の導入など、小規模校のデメリットを克服しつつ、少人数教育の有効性を活用することによって本村の教育環境の更なる充実に取り組むものとする。

なお、本計画案につきましては、平成 30 年２月 20 日開催の議会全員協議会においてご説明申し上げており、その後泊、千歳、南及び尾駮の４地区において説明会を開催し、保護者及び地区住民の方々に対しましてもご説明いたしました。どちらも本計画案の変更を伴うような意見が無かったことから、３月 22 日に教育委員会として本計画案を最終的に決定したところであります。

説明は以上でございます。

【戸田村長】

ただいま事務局からの説明が終わりました。皆様の御意見等がございましたらお願いしたいと思います。

【橋本教育委員】

本資料の４ページ目の、中学校の統合の時期につきましてでございます。中学校については 10 年程度以内を目途に、最終的に一校に統合する内容になっています。この 10 年につきましては、各地区の住民説明会の中でも意見が出ました。10 年はやはり時間がかかりすぎるという御意見もございました。わたくしもできるだけ早めに六ヶ所の中学校一校の統合化について進めていくべきと考えております。泊中学校、千歳中学校につきましては、それまで統合する間、暫定措置としてこういった対応は必要だと思います。10 年程度以内とございますけども、可能な限り早く一校にしていただきたいと思いますので、御意見として提案させていただきます。また、それに伴いまして今後、調整業務が出てくるかと思います。この業務につきましては、かなりの業務量になると推察できます。その業務に対応できる増員等につきましても、ご配慮いただければと思います。

【戸田村長】

それでは今のご意見につきまして、10 年度以内を目途に、最終的に中学校一校という考えですが、できうる限り 10 年という考え方を示していますので、私の行政側としての考え方として、財政の問題もありますが、今後いろいろな形を検討し、できうる限り今回のご意見に沿った形の考え方を示したいと思っております。それから、事務局の職員の対応の件は、こういう事業を行うには、委員会の計画や内容等々には事務処理できると考えておりますが、学校の建設工事や設計の考え方などは建設課が担当し事務処理するという仕組みになっております。現在の教育委員

会に配置されている職員だけでは、建設に係る事務も行うとなると、大変な事務量となりますので、そこは今後も総合的に考えながら、対応したいと思っておりますので、よろしくご理解願いたいと思います。
　あとは他にございませんか。
【伊藤委員】
　千歳平の小学校の件ですが、できるだけ早めにとりかかっていただきたいと思っております。
　実は昨年度の夏はとても暑く、教室に西日が入ってくるとものすごく暑くて児童は汗をかいていますが、教室には小さい扇風機２台のみで、そういう様子を見ると早く建設にかかっていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

【戸田村長】
　おそらく、老朽化しているため改築するという考え方から、エアコンは設置しておりません。それらを踏まえて、財政等の関係もありますし、今のご意見を踏まえて子どもたちにも快適な環境のもとで勉強させたいので、対応したいと思います。

【工藤委員】
　そもそも、学校を統合したり、一校にしたりするということは、子供たちの人口減少の歯止めがきかない、とか、日本原燃の職員がある程度の年齢になると六ヶ所村から出ていき、三沢市やおいらせ町に転校していくという状況もあり、いろんな要因があると思いますが、泊は村内でも高齢化の割合がかなり高いのですが、どうしても学校だけでなく、まちづくりも一緒に考えていかなければ、この先増える要素が見えないと感じているので、その辺も含めて、われわれ教育委員だけでなく村全体で考えていかなければならないという思いもあるので、委員もなるべく早く進めたいという思いもありますし、並行してまちづくりも検討していけたらと思っておりますので、村の方もよろしくお願いしたいと思います。

【戸田村長】
　この人口減少、それに伴う少子化というのは、周知のとおり、全国的に各地域が抱える問題ですが、人口増を目指す施策は、どうすれば地域全体で解決できるのか、確たる特効薬は見当たりません。さまざまな振興計画を作っているが、例えば村に限った場合、どういう地域の人口定

着を図るかとなると、一つは、例えば企業誘致を図ればいいという考えもありますが、今ある地域の職業形態、泊であれば漁業、南は農業、尾駮は商業地域であり、地域の経営、例えば後継者育成がなければ、減っていく状況になると思う。南は農業、庄内地区は酪農とありますが、こういう産業のところに、どうやって若者が魅力を感じ、職に就かせるか、こういう政策を考えます。そこで私が今考えているのは、高齢者が進んで漁業や酪農をやめるとか、こういう声がでてきております。これから後継者に受け継いでくれればいいのでしょうが、なかなか難しい。わたしも東京都にある一般財団法人「地域活性化センター」にも話をしているが、若い方、都会の方でも農業に従事したいという意欲がある方々を受け入れて、そこから見出していく方向はどうなのかなと、ただし、これをするには思い切った財源投資だとかをしないとなかなか来ません。一過性であれば来ると思うが、自分が好きで、農業や漁業をやりたいという方には、それなりの支援をしていかないと定着しない。財政の問題などがありますので、今からどういう風な手立てを講じていくかということは、役場全体で考えていかないといけません。だからこそ、今、第一次産業の振興重点政策としてとらえているのはそういう理由です。商業や漁業の振興を図ると、農業分野と組み合わさり、地域がまとまってカバーされると思います。言葉で発することは大変いいことですが、実際どうすればいいのかということであります。現在考えているのは、今、他県から遠藤さんという若い酪農家が村に来て従事しており、その方が弾みを付けて、これからの若い人、例えば酪農を営むのが好きな方への発信者になっていただきたいということで、村で給料を払い、様々支援をしております。ですので、こういう手立てをしていくしかないのかなと思っていましたが、そこには地域の方々が理解しあって、自分たちの親戚や子どもたちを、いかに都会から引き寄せて、農業や漁業を営ますのか、こういう誘導を図っていくことが行政の仕事だと思っていますので、これからも具体的な計画を進めますから、ご理解願います。

【簗田委員】

私の中学校時代は１クラス 50～60 人、６クラスがありました。今日の時代がうらやましいと思います。人口が少なくなると地域の活性化がだんだん劣化してしまいますが、子ども会活動や地域の諸行事、郷土芸能や地域産業等、海開きとか山開きとか、六ヶ所村には沢山の催し物があります。これは地域の協力もあり、良い方向に行くと思います。

小学校は４地区にあり、中学校は１校になる訳ですが、広範囲の中で地

域性の違う同年代がお互いに切磋琢磨し、多くの人と接し、多くの情報を得ることは、何物にも代えがたい宝だと思います。しかも、少人数クラスということで、これは画期的ですばらしい事だと思いますので、ぜひ実現してほしいと思います。

村内４地区で中学校１校の説明会を行いましたが、最初は「何がなんだかわからない」、「どうしてこうなるの」とすごく反感もあったと思います。先日、泊小学校の卒業式に伺いましたが、ＰＴＡはじめ地域の方々、議員方も「これから中学校は１校になるのですよね」とおっしゃっていました。それは一つの成果かなと思っていますし、皆様もそういう思いでいらっしゃるのだと思うと、早急に進めてほしいと思います。家庭、学校、地域社会が一つになってやっていくために、それぞれの地域のカラーを取り入れた取り組みが必要かと思います。

【戸田村長】

これまでの統合の問題、あるいは将来の教育の在り方等々について、教育委員の皆様方が、これまで懸命に現場に出向いていろんなご意見をうかがって、この結果が成果として表れておりますので、本当に委員の皆様方には感謝を申し上げます。これまでのご意見を踏まえ、最終的に決めて、了としたいと思います。

他にありませんか。

【伊藤委員】

この間、千歳平小学校の入学式に参加した時、いつも千歳平の子どもたちはわりとおとなしい子が多いのですけども、みんなはきはきしていて、たまたま千歳平こども園の園長先生がお見えになって、終わってから「みんな素晴らしいですね」と意見が出ました。やっぱり、保育所と違って、こども園になってしっかりした意識が芽生えて入学式に臨めたのかなと思って、すごく成果がでたのではないかと思います。

ぜひ、こども園ができていない地域にも早急にお願いしたい。

【戸田村長】

南地区にも早急にこども園建設を実現できるようにしております。用地買収等も済ませているかと思います。やはり、幼児教育が大事だと思っておりますので、力を入れて政策を行っていきたいと思っています。

他にございませんか。

【橋本教育長】
　教育委員がみんな親身になって考えてくれ、わたしも自分の考え方を形にしていくということで、みんなに協力してもらってここまで大きな柱を立ててきましたので、この先行政も、金銭的なことや職員の配置等の人的なことなど、いろんな面から助けていただき、この計画をそのまま、できるだけ短い期間で進めていきたいと思いますので、村長にもぜひよろしくお願いします。

【戸田村長】
　教育委員会のこれまでの行動力と、今日のご意見を踏まえ、今後の計画を形にするように努力しますので、改めてご協力のほどお願い申し上げます。
　他にございませんか。
　それでは、ご意見をいろいろお伺いしましたけれど、これで総合教育会議において六ヶ所村立小・中学校配置計画（案）を承認するということにご異議ございませんか。

（異議なしの声）

　それではそのように決定いたします。
　以上をもちまして本日予定しておりました案件は終了いたしました。
　それでは事務局に進行を戻します。

【事務局】
　最後に事務局から、連絡があります。
　本日の会議の議事録は、作成後、皆さんからご確認いただき、その後に公開することとしておりますので、よろしくお願いいたします。
　以上をもちまして、平成 30 年度第１回六ヶ所村教育総合会議を閉会いたします。
　皆様お疲れ様でした。